

語学指導を行う外国青年招致事業

リンさんからライアンさんへバトンタッチ

——2年間 サンキュー・リンさん——

市では、中学生の外国語(英語)教育の充実と国際交流の進展を図るため、昭和六十三年八月から「語学指導を行う外国青年招致事業」を実施しています。その最初の英語指導助手として来館しているリンさん(カナダ)が、七月いっぱいライアンさん(イギリス)とバトンタッチすることになりました。リンさんは、二年間にわたり中学生たちの国際化意識や語学力、マナーなどを育てくださるとともに、市民との交流も積極的に行うなど、国際性の醸成推進に大きな役割を果たしてくれました。

大館での生活を振り返って、リンさんから市民のみなさんへメッセージをいただきましたので、紹介します。

友情と礼儀は

世界共通のもの



(リン・ナワタ)

大館で暮らして感じた、私のあくまでも個人的な意見として、「国際化」についてお話してみたいと思います。このテーマを選んだのは、今まで多くの人から意見を求められてきたからです。さて、私はカナダ人です。しかしカナダ人であるということだけで、私が国際人であるということになるのでしょうか。「日本人は国際的ではない。真の国際化は望めない」と言う日本人にお会いすることがよくありますが、カナダでも国際化とか国

際的ということ、全く理解していない人はたくさんいます。外国語を話せるとか、多民族、多文化国家にいたるとか、外国に行ったことがあるというようなことが、インターナショナルであるとは言えないと思うのです。自分たちと違う人種、文化を受け入れられるかどうか国際化を考えるうえで重要なことではないでしょうか。言語や習慣の違いにかかわらず、人はみな同じなのです。国際化に関して、一般的な意見で定義づけてしまうのは少々危険ではないでしょうか。

コミュニケーションするうえで大事なことは、相手を一人の人間として見る、つまり「攻撃的なブロンドの、はしを使えない外人」対「内気で無口な、感情をあまり外に出さない日本人」というのではなく、個人対個人として付き合っていくことではないでしょうか。

「どうやって外国人に接すればよいかわからない」とよく聞きますが、英語で「自分にしてほしいことを相手にしなさい」という言葉があります。また、日本でよく言う「自分が嫌なことは相手にするな」など、国際化を考えるうえで、このことはとても大切なことです。周りの人に話しかけられず疎外されるよりは、親しみをもちて接してほしいとだれでも思うはずですが、友情と礼儀は世界共通のものなのですから。

私は今、周りの方が私を「外人」としてではなく、「一人の友人、職場の仲間として、そして同僚教師として接してくださるのをとても幸せに感じています。みなさんがそれぞれの「国際観」を持つことと、自分が本当に国際化を目指しているのかどうかを、自分で考えてみる、ことが何よりも大切なことだと思います。

あなたから

どう考えますか?

(次ページへ続く)

市長メモ



No.35

地道な国際化事業

経済大国日本。それは自らの努力もありますが、世界経済の枠組みの中で築かれてきたことを忘れてはいないでしょうか。とすれば、もっともって他国のことを知るようにならなければなりません。国際化とはそういうことだと思います。特に言葉の障害がなくなったらどんなに楽しいか知れません。

二年間、市内の中学校英語指導助手として大変ご活躍を頂きましたシーラ・リン・ナワタさん(カナダ)ともお別れすることになりました。教育ですから速効性は無理としても、二年間の交流は先々の大館とカナダ、そして広く国際化に大きな芽となってくれるものと信じています。この事業は引き続き実施していきますし、子供たちの作品等の交流も、もっともっとと活発にしてまいります。

国際化は、自分の身の周りにもいっぱいあります。問題は、それにどれだけ積極的であるかということではないでしょうか。

市長 佐々木